

群馬県立沼田高等学校(全日制) 学校評価一覧表① (令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改 善 策	自己評価	外部アンケート等	改 善 策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①文武両道を日々心がけて学校生活をすごしている生徒が70%以上である。 ②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的に行っていると答える生徒が80%以上である。 ③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が90%以上である。 ④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。	学校全体で文武両道の行動規範を推奨し、生徒が1日の中での文武両道を意識して、主体的に日々の学習と部活動に取り組むよう、機会あるごとに機運を高める。 折に触れ、「五常の教え」について意識させ、学校行事などで更に浸透を図る。教職員自ら手本となり全員で挨拶の励行と清掃活動に取り組む。 食育に関する「食と健康」や保健に関する「保健便り」などの広報誌を発行し食事の重要性について生徒に訴えたり、「料理講習会」などの食に関する生徒向け行事を行ったりする。 生徒が日々の学習活動及び学校行事や部活動等に主体的に取り組める雰囲気を醸成し、学校生活の中で楽しさや充実感を感じするような教育活動の場面を設定する。							
	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤学習上の疑問に教科担当者が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。 ⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。	職員が日頃の授業の様子や学びの基礎診断テストツールの結果などから、生徒の学習状況を把握し、個々の学習レベルに合わせ、生徒の疑問にわかりやすく答える。 少人数・習熟度別授業のメリットを活かした授業内容や進度について、各教科で検討し、主体的で対話的な深い学びに繋がるよう授業改善に努める							
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦授業で学習した内容の理解を深めるために、PDCAサイクルを意識して、家庭で学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。	授業内容と連動した有効な家庭学習課題を授業計画に組み入れる。また、家庭学習でクロムブックを有効に活用し、学び直しが繋がるような学習課題を設定し、一人一人の絶対的な家庭での学習時間を増加させる。							
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。 ⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。	「青春の志」実現計画を踏まえ、年3回の二者面談週間や各担任との面談を通して、生徒の学習面・生活面について把握し、各自にあった適切な指導を行う。 学年会議や分掌会議での情報を共有し、生徒の些細な変化や悩みなどに速やかに対応できるようにする。学年と分掌が互いに得た情報をフィードバックするとともに管理職も含めた組織的な指導を行う。							
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である。	本校のいじめ防止プログラムに取り組むとともに、校内職員研修の充実を図る。学期に1回以上、いじめアンケートを行い、いじめの早期発見と早期対応を図る。また5月・12月の強化月間には正門・生徒玄関にのぼり旗を立てて啓発を図るとともに保護者にも学校HPや一斉メールを通じて情報発信を行う。							
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。 ⑫月に2回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。 ⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	学年と各分掌が連携し、面談等を通じて生徒の健康管理や規則正しい生活習慣について指導を行う。欠席遅刻が多い生徒に対して、保護者と連携して指導していく。挨拶の励行については教職員側からの挨拶を心掛ける。 「カウンセラーだより」の配布やこころの教育事業を通じて気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。							
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。	進路指導年間計画に基づき、各学年と連携して、3年間を見通した系統的、段階的な指導を展開する。							
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。 ⑯模擬試験を有効に活用し、進路選択に役立てている生徒が70%以上である。	「総合的な探究の時間」年間計画に基づき、課題設定、情報収集、探究活動等に主体的、協働的に取り組ませることを通して、生徒自身がキャリアプランを策定する能力を向上させる。 進路指導年間計画に基づき、模擬試験を実施し、各学年で必要とされる基礎学力の定着と応用力の伸長を図る指針とする。さらに模試結果を活用した受験後の指導を充実させる。							
	9 保護者に積極的に進路情報の発信をしていますか。	⑰保護者対象の進路学習会を有意義だと感じている保護者が70%以上である。	進路学習会について、保護者が参加しやすい日程を検討し、各学年と連携し、時宜を得た進路情報をわかりやすく提供する。							
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱PTA総会やPTA保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。 ⑲図書館、桔梗館の一般開放に満足している参加者（生徒保護者を含む）が70%以上である。 ⑳Webページに掲載された情報やオクリンジャーの連絡が役に立っていると感じる生徒保護者が80%以上である。	生徒を通じた配布物に加えて、オクリンジャーやクロムブックなどを十分に活用し、各行事の日程や内容等について分かりやすく保護者へ連絡し、参加を促す。 図書館・桔梗館一般開放の日程をホームページ上に掲載したり、広報を作成したりするなどして、地域社会の方々に周知を図る。 各分掌、学年、部活動等から集めた情報や連絡を迅速に処理してWebページ上で発信する回数を増やす。オクリンジャーについては、掲載する内容や時期を精査して、必要な連絡を発信する。							
	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑ICT機器を活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。 ㉒ICT機器を使った授業が70%以上である。	「Gunma Model Advanced」等を参考に先進的な授業の実践例を職員間で共有し合い、ICT機器活用 of のさらなる促進を図る。 グーグルクラスルームやスタディサプリを中心的な学習プラットフォームとして活用し、各生徒の学習状況等を可視化することで、学習意欲の向上を図る。							
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉓ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	グーグルクラスルームを活用し、保護者通知や各種アンケート等のペーパーレス化を進め、従来の回収作業等の業務の負担を軽減していく。							